

※TYLO サウナヒーター各機種共通・重要事項

TYLO 社のサウナヒーターは本体の真下付近の温度が 47℃以上になると自動的に電源が落ちる仕組みで安全性を高めています。

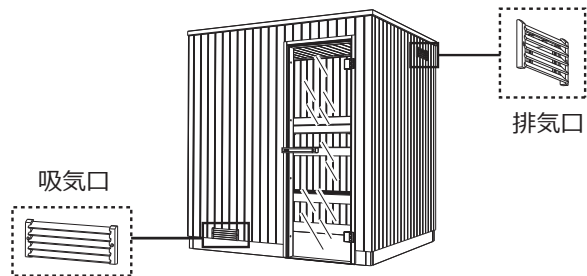
その為、TYLO 社の純正サウナユニットは予めサウナ室内に自然吸・排気口が設けられていて使用中は絶えず空気を循環して使用するようになっています。

建築でサウナルームを制作し TYLO 社のサウナヒーターのみを設置する場合も同じように吸気口と排気口を設置して空気を循環させて使用する必要があります。

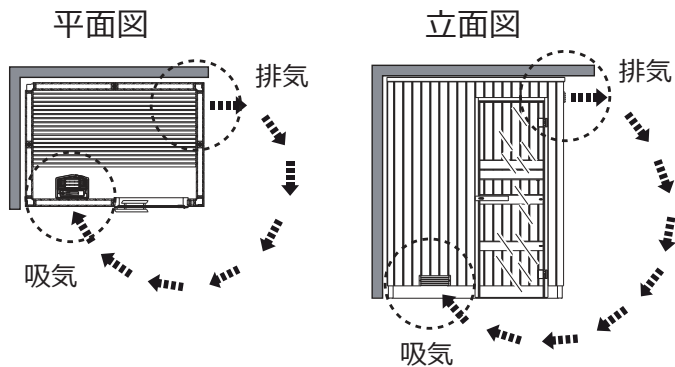


空気の換気・循環が出来ないとサウナヒーターが正常に動かず機械が途中で止まってしまい使用する事が出来ません。
(空気の循環が出来ないと機械の故障の原因になり保証も対象外とさせていただきます)

TYLO 社の純正サウナユニットの換気口の位置

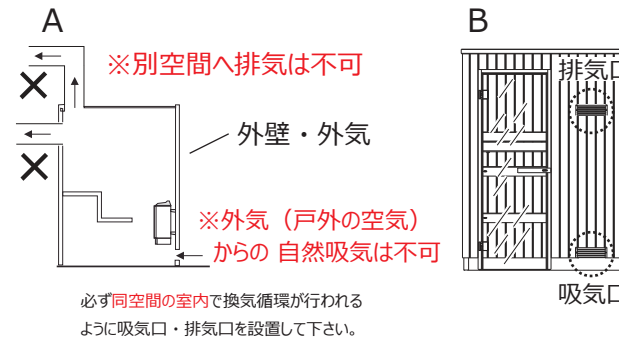


空気循環イメージ

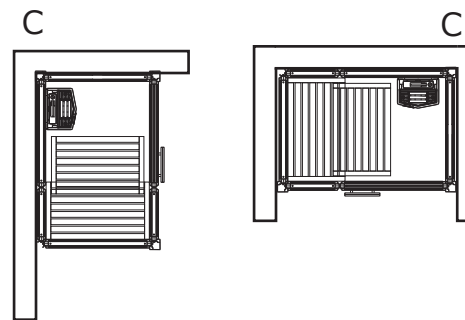


いずれかの方法で吸気口・排気口を設置してください、吸気口はサウナヒーター真下に設置して排気口はその対角部の出来る限り距離を取って空気が循環対流するようにして設置して下さい。
(吸気口・排気口の大きさは共に 100mm×100mm程度の大きさにして下さい)

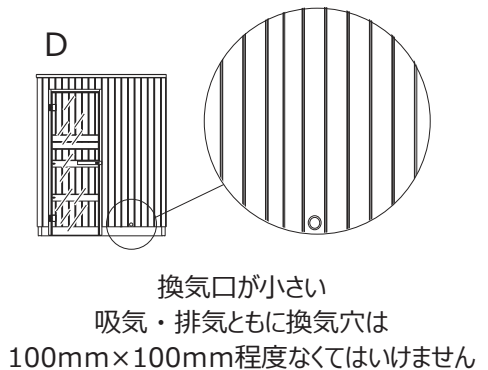
× な設置例 A・B・C・D

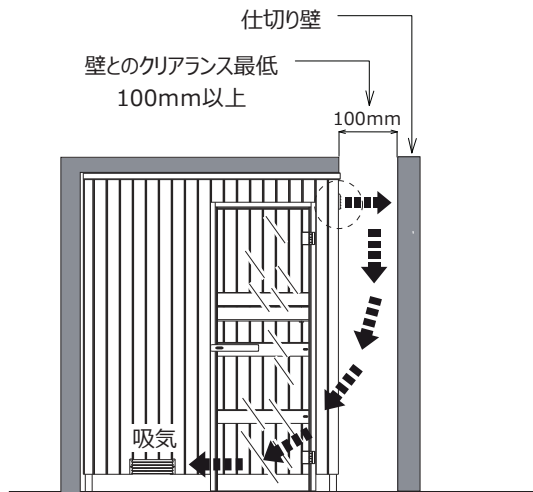
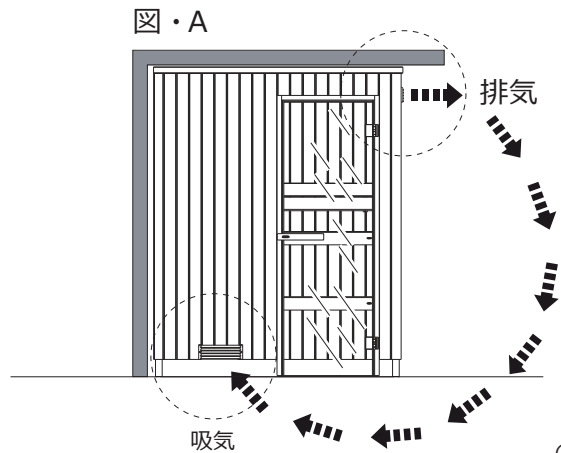


※吸気口と排気口は対角部の離れた場所に設置しなくてはなりません。このケースだとサウナ室内の空気が循環せずにショートサーキットを起こしてサウナヒーターが止まってしまいます。

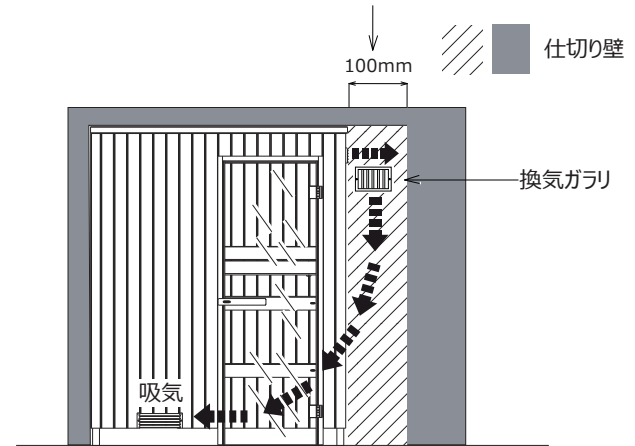


※サウナヒーターは基本ドア側に設置しなくてはなりません。





両側面・天井の3面を壁で囲う場合も、吸気・排気を取っている面は必ず壁から100mm以上のクリアランス（通気層）を取ってください

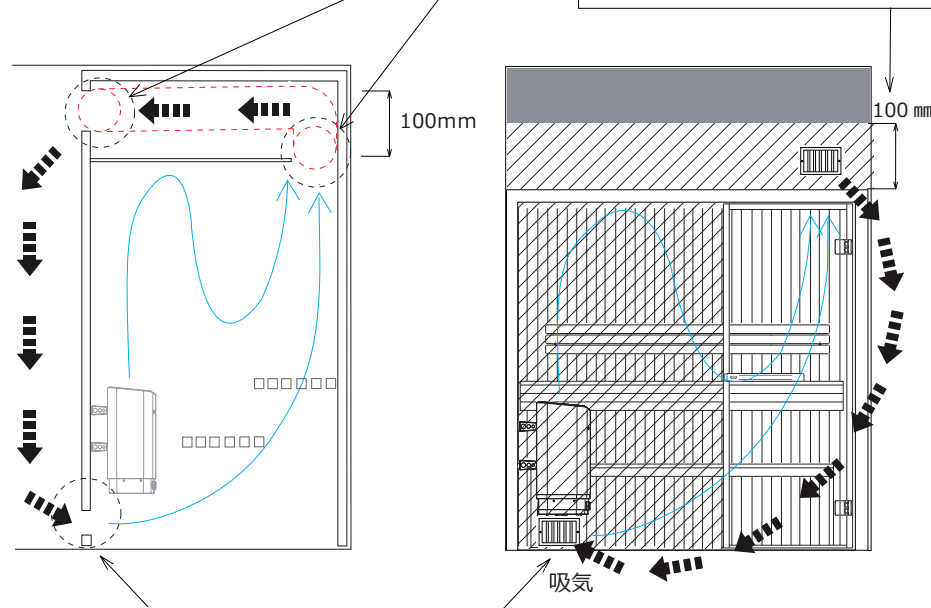


仕切り壁を立てる場合は壁から100mm以上のクリアランスを取って図Aのように空気を対流するようにしてください。

吸・排気面を壁でふさぐ場合は換気ガラリを取り付けて上記図のように空気がドア側に戻ってくるようにしてください。

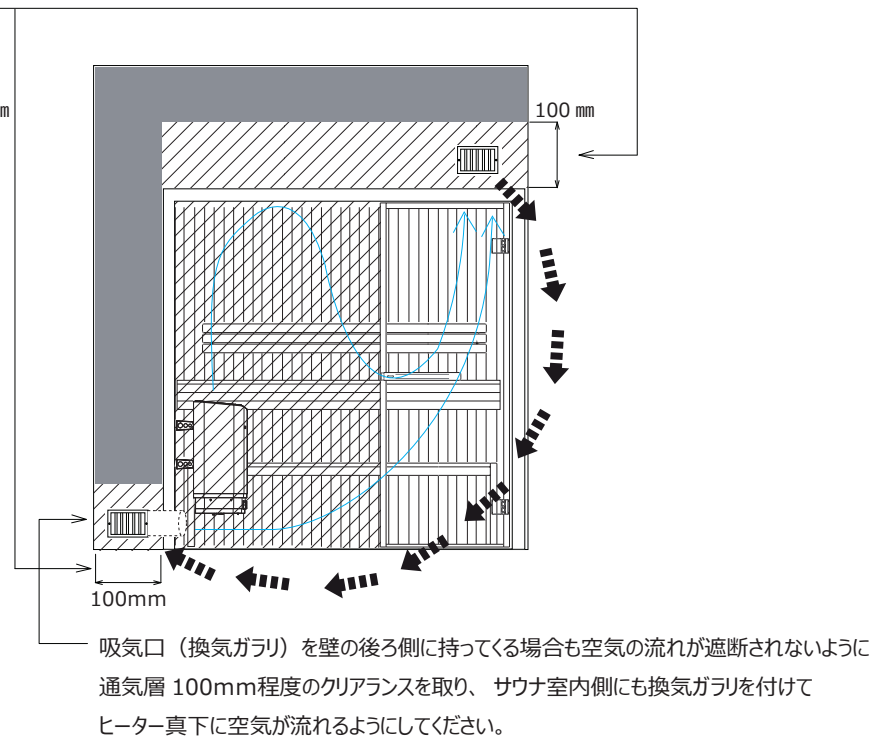
図・B 天井から排気する場合

天井から排気をする場合は図Bのように二重天井にして空気が流れるように最低100mm以上のクリアランス（通気層）を取ってください。図Bの赤線部のようにダクトを使用して排気しても構いません。

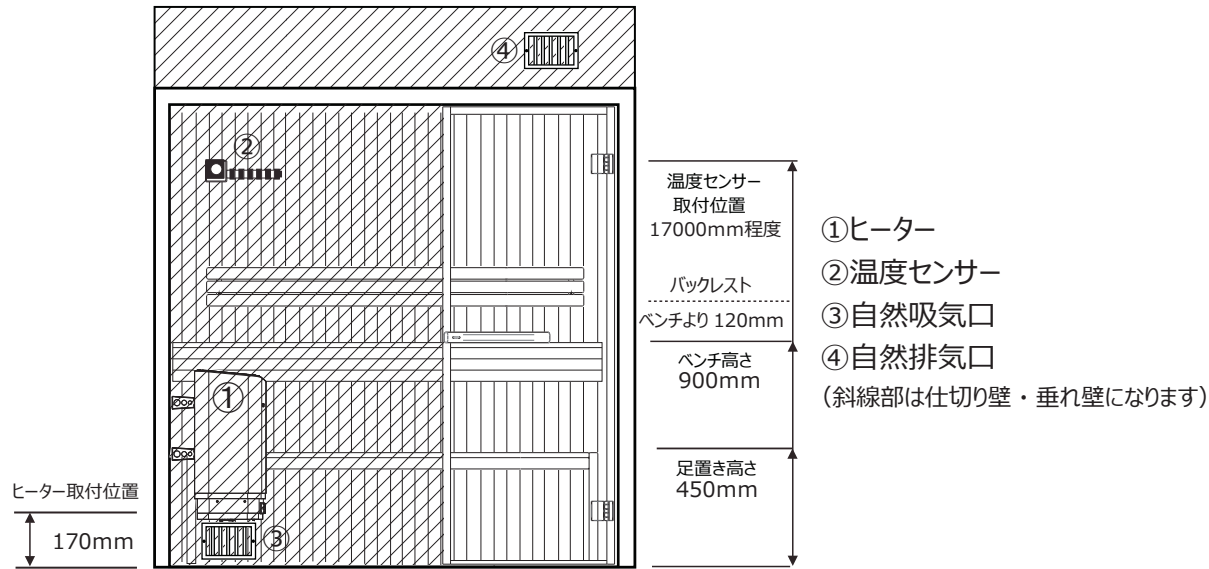


吸気口（換気ガラリ）はサウナヒーターの真下の位置でなくてはなりません

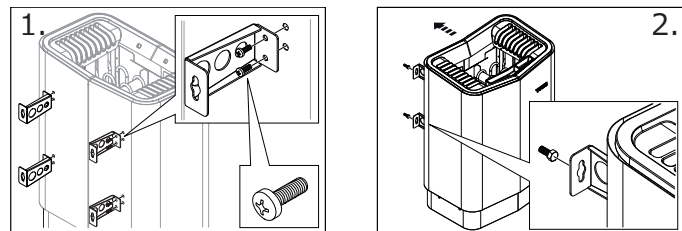
→ サウナ室内の空気の流れ
 ■■■ 排気された空気の流れ



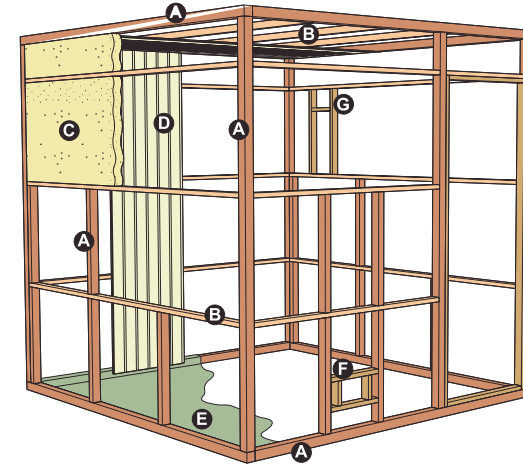
各種取付設置例



サウナヒーターの取付け方



サウナルームの作り方



- A = フレームは垂木や 2×4 材で施工
- B = 補強材
- C = 断熱材 50mm (壁と天井全て) + タイバックシート
※断熱材・グラスウール・ウレタン等
- D = 室内仕上材 (アスペン・スプルス・ヒノキ)
※入浴中身体に触れない箇所はタイルでも可
- E = フローリング・タイル・クッションフロア
※床付近は温度上昇せず、水分を吸わないような素材
- F = サウナヒーター真下部分・吸気口 100φ程度
- G = 上部・排気口 100φ程度
- ベンチ = 1 段目 H450mm (足置き)
2 段目 H900mm (座席)

※Cの断熱材とF・Gの吸排気口は必ず設置して下さい